

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |                 |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称     | ティ・エステック株式会社 浜松工場     | 階数     | 地上2F            |
| 建設地      | 静岡県浜松市                | 構造     | S造              |
| 用途地域     | 市街化調整区域、法22条区域        | 平均居住人員 | 140 人           |
| 地域区分     | 6地域                   | 年間使用時間 | 1,920 時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 事務所・工場                | 評価の段階  | 実施設計段階評価        |
| 竣工年      | 2022年8月 予定            | 評価の実施日 | 2021年10月12日     |
| 敷地面積     | 27,877 m <sup>2</sup> | 作成者    | TPSC 細田         |
| 建築面積     | 8,806 m <sup>2</sup>  | 確認日    | 2021年10月14日     |
| 延床面積     | 11,061 m <sup>2</sup> | 確認者    | TPSC 杉野         |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 41%

③上記+②以外の 41%

④上記+ 41%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

| 3 設計上の配慮事項  |   |   |
|---|---|---|
| 総合  | その他   |   |
| 建物の要求仕様の精査と現実的で効果的な機能性を有する設計を行うことで環境に配慮した計画を実現させる   |   |   |
| <b>Q1 室内環境</b><br>作業室と執務室のそれぞれの作業で支障がでないように配慮した計画   | <b>Q2 サービス性能</b><br>機能性・使いやすさについて執務室は1人当たりのスペースを7m程度天井高2.7m確保し密になり過ぎないこと、圧迫感の低減に配慮し、通信設備は無線ランにより使用場所が制限されないことに配慮  | <b>Q3 室外環境(敷地内)</b><br>積極的な緑化計画と浸透舗装計画による自然環境の整備と周辺地域に配慮した圧迫感のない建物計画                  |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>太陽光を利用したトップライトによる自然採光によりエネルギー負荷低減。<br>照明設備は、高効率な機器の採用と作業域と非作業域を区別した配置計画 | <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>衛生設備は節水型機器の採用と便器洗浄水に中水(雨水再利用水)を利用する計画<br>主要構造を鉄骨造とし、外壁、屋根とも乾式工法を採用することで、躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画 | <b>LR3 敷地外環境</b><br>地域インフラへの負荷抑制に関し、雨水対策として浜松市開発指導要綱による埋設型の雨水貯留施設と放流先排水能力をに適合した排水量の計画 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

| 1. 建物概要 |                               |     |                    |
|---------|-------------------------------|-----|--------------------|
| 建物名称    | テイ・エステック株式会社 浜松工場 新工場建設工事 新工場 | BEE | 1.5 BEEランク A ★★★★★ |

| 2. 重点項目への取組み度  |        |         |            |
|--|--------|---------|------------|
| 重点項目   | 得点*/満点 | 取組み度    | 評価         |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)               | 3.9 /5 |         | ふつつ        |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)                            | 2.9 /5 |         | がんばろう      |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)               | 3.7 /5 |         | ふつつ        |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)                            | 2.7 /5 |         | がんばろう      |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) |        | 評価 凡例   |            |
|  |        | よい 4点以上 | ふつつ 3点以上   |
|  |        |         | がんばろう 3点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要   |  | 内訳対応項目  |   |     |
|--|--|---|---|-----|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。  |  |   |   |     |
| <b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>   |  | 得点  | 3.9   |     |
| <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 作業室と執務室のそれぞれの作業で支障がでないように配慮した計画</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 敷地内緑化整備</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 太陽光を利用したトップライトによる自然採光によりエネルギー負荷低減。照明設備は、高効率な機器の採用と作業域と非作業域を区別した配置計画</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 衛生設備は節水型機器の採用と便器洗浄水に中水(雨水再利用水)を利用する計画 主要構造を鉄骨造とし、外壁、屋根とも乾式工法を採用することで、躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 地域インフラへの負荷抑制に関し、雨水対策として浜松市開発指導要綱による埋設型の雨水貯留施設と放流先排水能力に適合した排水量の計画</p> | Q-1 2 2.1 2.2 ①<br>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②<br>3.2 3.2.1 ③<br>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④<br>2.2.2 ④<br>2.2.3 ④<br>2.2.4 ④<br>2.2.5 ④<br>2.2.6 ④<br>Q-3 1 ⑤<br>3 3.2 ⑥<br>LR-1 1 ⑦<br>2 ⑧<br>3 ⑨<br>4 4.1 ⑩<br>4.2 ⑩<br>LR-2 1 1.1 ⑪<br>1.2 1.2.1 ⑪<br>1.2.2 ⑪<br>2 2.1 ⑫<br>2.2 ⑫<br>2.3 ⑫<br>2.4 ⑫<br>2.5 ⑫<br>2.6 ⑫<br>3 3.1 ⑬<br>3.2 3.2.1 ⑬<br>3.2.2 ⑬<br>3.2.3 ⑬<br>LR-3 1 ⑭<br>2 2.2 ⑮ | ① 外皮性能<br>② 昼光利用設備<br>③ 昼光制御<br>④ 躯体材料の耐用年数<br>⑤ 生物環境の保全と創出<br>⑥ 敷地内温熱環境の向上<br>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制<br>⑧ 自然エネルギー利用<br>⑨ 設備システムの高効率化<br>⑩ モニタリング<br>⑪ 運用管理体制<br>⑫ 節水<br>⑬ 雨水利用システム導入の有無<br>⑭ 雑排水等利用システム導入の有無<br>⑮ 材料使用量の削減<br>⑯ 既存建築躯体等の継続使用<br>⑰ 躯体材料におけるリサイクル材の使用<br>⑱ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用<br>⑲ 持続可能な森林から産出された木材<br>⑳ 部材の再利用可能性向上への取組み<br>㉑ 有害物質を含まない材料の使用<br>㉒ 消火剤<br>㉓ 断熱材<br>㉔ 冷媒<br>㉕ 地球温暖化への配慮<br>㉖ 温熱環境悪化の改善 |   |     |
|  | <b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>  |   | 得点  | 2.9 |
|  | <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 耐震性について使用部材では設備配管VLP,VP材の採用 通信設備は無線ランにより使用場所が制限されないことに配慮</p>  | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯<br>2.1.2 ⑯<br>2.4 2.4.1 ⑰<br>2.4.2 ⑰<br>2.4.3 ⑰<br>2.4.4 ⑰<br>2.4.5 ⑰   | ⑯ 耐震性<br>⑰ 免震・制振性能<br>⑱ 空調・換気設備<br>⑲ 給排水・衛生設備<br>⑲ 電気設備<br>⑲ 機械・配管支持方法<br>⑲ 通信・情報設備 |     |
|  | <b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>   |   | 得点  | 3.7 |
|  | <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 機能性・使いやすさについて執務室は1人当たりのスペースを7㎡程度天井高2.7m確保し密になり過ぎないこと、圧迫感の低減に配慮</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 景観を損なわない建物の形状・色彩を採用 2階に全長96mのデッキを設置し建物内外を連関させる計画</p>  | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱<br>3 3.1 3.1.1 ⑲<br>3.1.2 ⑲<br>Q-3 3 3.1 ⑳  | ⑱ ユニバーサルデザイン計画<br>⑲ 階高のゆとり<br>⑲ 空間の形状・自由さ<br>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上                       |     |
| <b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>  |  | 得点  | 2.7   |     |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 積極的な緑化計画と浸透舗装計画による自然環境の整備と周辺地域に配慮した圧迫感のない建物計画</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 敷地内緑化整備</p>  | Q-3 1 ⑤<br>2 ②<br>3 3.2 ⑥<br>LR-2 2 2.5 ⑫<br>LR-3 2 2.2 ⑮  | ⑤ 生物環境の保全と創出<br>② まちなみ景観への配慮<br>⑥ 敷地内温熱環境の向上<br>⑫ 持続可能な森林から産出された木材<br>⑮ 温熱環境悪化の改善   |   |     |